

# 論文内容要旨

## 新任保健師の職業的アイデンティティの形成を促す教育プログラムの開発

主指導教員：中谷 久恵教授

(統合健康科学部門 地域・在宅看護開発学)

副指導教員：濱田 泰伸教授

(統合健康科学部門 生体機能解析制御科学)

副指導教員：川崎 裕美教授

(統合健康科学部門 地域・学校看護開発学)

金藤 亜希子

(医歯薬保健学研究科 保健学専攻)

## I. 背景

自治体に勤務する保健師（以下、保健師）は、地域包括ケアシステムの推進や生活習慣病の発生・重症化予防、災害時の公衆衛生活動など地域保健を取り巻く課題に対応する看護職である。保健師の活動の場は医療・福祉・介護分野へと拡大し、保健師は入職当初から虐待や貧困による困難事例に遭遇することも多い。保健師は新任期から専門職であることを意識し、自律に向けた基礎的能力獲得への自己研鑽が要求される。

このような意識の動機づけには、職業的アイデンティティ（professional identity：以下、PI）が重要な役割を果たす。しかしながら、保健師は多職種で構成されるチーム活動が多く、保健師独自の活動の成果や専門性の把握が困難なうえ、同僚間での話し合いの場や上司からの指導を受ける場が持ちにくく、PIを確立し難い状況にある。専門職であること意識したPIは、職務遂行の基盤であり、PIの確立は職務を全うする上で必要不可欠であるが、保健師のPIの構造はこれまで十分に明らかにされていない。また、保健師のPIの形成を目的とした教育プログラムも見られない。従来、現任教育として行政が行ってきた保健師への集合研修は、切迫した行政財源の中で開催は減少してきているうえに、分散配置の影響により参加困難な保健師が出来している。

## II. 目的

人材育成の試みとして、新任保健師のPI形成を促進する教育プログラムを開発し、有効性を検証することを目的とする。

## III. 研究結果

研究1では、新任保健師7名を対象としてPIの形成状況を半構成的面接調査で明らかにした。結果、新任保健師のPIについて6つの要素：【力量不足の自覚】【役割遂行への責任感】【他者からの評価による存在価値の確認】【活動の振り返りから得た自信】【職業への誇り】【目標のある自己研鑽】が抽出された。中堅期以降の保健師との比較により、保健師のPIを表現するためには、職業への適応感の要素を追加する必要性が明らかとなった。

研究2では、保健師のPIの構造を質問紙調査によって明らかにした。保健師670名のうち314名の有効回答から、探索的因子分析により3因子：【技術への自信】【成長志向】【職業への信頼】を得た。経験年数別のPIの比較を、分析により得られた項目案の因子負荷量を用いて行った。新任保健師は、中堅期以降の保健師よりも【技術への自信】( $p<0.001$ )【職業への信頼】( $p<0.001$ )において有意に低かった。2つの研究から、教育プログラムに取り込むPI形成促進要素は、①保健師活動を自ら振り返ること、②保健師としての思考や価値観について他者から直接フィードバックを貰えること、③複数の保健師との関わりの中で保健師としての視点や意見を承認される体験が得られること、そして④明確な目標をもって積極的自己研鑽を行えるシステムであるという知見を得た。

研究3では、ADDIEモデル（Analysis, Design, Development, implementation, Evaluation）を使用して教育プログラムを作成した。新任保健師の特徴を整理し、教育目標を研究2で明らかとなったPI構造3因子に沿って設定した。日本看護協会の事例検討会

の枠組みに基づき、事例を教材とする受講者同士の相互学習をコーチングによりサポートする方法とした。

研究 4 は、新任保健師を対象に、上記教育プログラムの PI の変化に対する有効性について、e ラーニング教育を行う介入群、従来型教育である集合教育を行う対照群とした無作為化比較試験により検証した。適格基準を満たした対象者の中から研究協力に同意が得られた 28 名を無作為割付し教育プログラムを展開した。結果、PI の変化は 2 群間に統計学的に有意な差を認めなかった。12 項目全体 ( $p=0.008$ )・因子 I 【技術への自負】 ( $p=0.005$ )・因子 III 【職業への信頼】 ( $p=0.047$ ) の得点に、介入による経時的変化を認めた。3 つの教育目標の達成度は、いずれも集合研修が高い割合を示した。教育プログラムへの満足度は集合研修が e ラーニングより有意に高かった ( $p=0.001$ )。本研究により、e ラーニングによる介入の課題として、学習意欲の継続と教育目標達成に向けた教育プログラムの工夫の必要性が推察された。また、開発した教育プログラムは PI の形成促進に貢献する可能性が伺えた。

#### IV. 結論

本研究で開発した教育プログラムは、新任保健師の学習意欲を高める手法として適切であり、PI の形成促進に貢献する可能性が示唆された。